

日本軍「慰安婦」問題の真の解決をあきらめない

～被害者不在の日韓「合意」で解決にしているの？～アジア連帯会議報告を兼ねて～

【1】2015.12.28 日韓外相による口頭の声明(p.3)

- ・加害国が「最終的かつ不可逆的解決」という傲慢さ
- ・直後の安倍発言でも表れている
- ・被害者の声 (韓国 12/30 の映像) (p.4-8) ・イ・ヨンスさん「二度も殺すのか」
- ・韓国政府による財団発足(7/28)(抗議声明 P.19-21)

【2】日本軍「慰安婦」被害とは

- ・朝鮮人女性の被害(p.9-11) ・被害者は韓国だけではない。それだけでなく広範囲で民族多様。植民地の朝鮮や台湾、侵略している中国やフィリピン・マレーシア・など東南アジア(p.15-16)
- ・今までの国連勧告や、女性差別撤廃委員会の今回の勧告 (アジア連帯会議) より(p.2)
- ・フィリピンのエステリータ・デイさんや東ティモールの被害者の話 (アジア連帯会議)
- ・2000回目の水曜デモの映像(資料は p.12-14)

【3】運動を発展させてきたのは被害者。その結果が平和の碑。反日でも何でもなし。二度と繰り返さないため。それを撤去させようというのだ。(平和の碑の写真)

(4. なぜ合意という名の政治的談合に至ったのか)

【5】. 韓国社会の怒り

- ・若者が座り込んで少女像を守る 12/30 よりずっと。(p.18) 水曜デモの写真
 - ・ソウル市追悼公演造成 (慰安婦追悼の公園「記憶の場」は現在、ソウル市中心部にある南山のふもとで造成が進められている。敷地は「韓国統監官邸」の跡地で、8月15日の光復節 (日本の朝鮮半島統治からの解放記念日) までに完成するという。)
 - ・欧州平和紀行(蝶の夢)6月
 - ・正義記憶財団発足(p.16-18)
- ユネスコ登録申請 / 博物館建設活動(韓国ソウル・釜山・大邱、台湾) / シドニーで少女像

【6】日本社会が問われている

- ・事実を認め謝罪するとはこういうことでは?(p.22)
- ・日本の全国行動報告 (アジア連帯会議報告) (p.1-2)
- ・各国支援者報告。特にフィリピン。次にインドネシア・東ティモール、オランダ。中国・香港・台湾。(アジア連帯会議報告)
- ・国連勧告に対する日本政府の対応
- ・韓国報告 (アジア連帯会議報告)。韓国政府の強引な進め方。(p.2)
- ・「帝国の慰安婦」問題 (韓国の問題というより日本社会の問題を反映している)

第14回日本軍「慰安婦」問題解決のためのアジア連帯会議決議 日本政府への提言の実行を(p.23-24)

アジア連帯会議 報告にかえて

(1) 日本軍「慰安婦」問題解決全国行動の日本報告より抜粋

①「日本の世論は『合意』歓迎の論調が強く、『合意』の無効化を叫んでも、喜ぶのは右翼だけで一般の世論の理解や支持は得られない状況であることを認識し、まずは今回の政府間『合意』の不当性と問題点を人々に知らせることから始めるしかないという結論を得た。そして、あるべき解決は第12回アジア連帯会議が作成し日本政府に提出した『提言』の実現であることを改めて訴えていくことを決定した。」

②「『合意』後、一気に市民の関心が薄らぎ、『もう終わった問題だ』という反応が多く見られるという。それは、本来ならば共に日本軍「慰安婦」問題の解決を訴えて連帯すべき側にいる人々の中にも見られるという。その要因として『慰安婦』問題を政治問題、外交問題とだけ見る視点がここ数年の間に市民の間に広く行き渡ったことが挙げられよう。曰く『外交問題でどちらか一方が勝つことはない。お互いに譲り合わなくてはならない』というのだ。日本軍「慰安婦」問題は、本来、政治問題や外交問題ではなく、女性の性が戦争遂行という国家目的遂行のために蹂躪された重大な人権侵害問題であり、このような重大な人権侵害を受けた被害者が加害者に譲歩する必要などないのだという常識感覚すら失われている。」

③「メディアがはたした役割は大きい。・・・東京新聞でさえ・・・『合意』の変わらない推進を提言・・・沖縄の琉球新報をはじめ・・・」「日本の野党・・・」

(2) 韓国挺身隊問題対策協議会の基調報告より抜粋

④「日本政府は『台湾は韓国とは違う』として拒否するなど加害者の凶々しさと暴力性を露わにした」

⑤「合意発表当時、韓国には46人の生存者がいた。その後、2名が死亡し、現在は44名が生存している（注：7/29 現在40名となった）。その44人の被害者が本人の正確な判断で自身の意見が表明できる方はごく少数に過ぎない。」

⑥「12.28 合意に対する韓国政府の『創意的』解釈（韓国政府の嘘）韓国政府は、被害者と市民社会が反対の立場を明らかにするや、今回の合意は被害者の要求を反映した者だと釈明した。とりわけ、アジア連帯会議の要求を受け入れたものだとし、被害者と支援団体の反対に対し反論し始めた。」

⑦「2月7日国連女性差別撤廃委員会（CEDAW）は日韓「合意」が被害者中心アプローチを十分に反映していないことに懸念を表明し、日本政府の公式謝罪と賠償を促した。政府の指導者や公職についている人々の、被害者に再びトラウマを与え、責任を軽くするような発言を確実に止めさせることも、日本政府に要請した。また、2月4日国連人権高等弁務官も「日本軍性奴隷制度下で生き残った女性たちが真の賠償を受け取ったか否かの判断は彼女たちだけができる」とし、日韓当局が勇敢で堂々とした女性たちと協議することが大事なので被害者の理解を得るよう促した。」

3月11日には国連特別手続きの3機関である「法と慣行における女性差別に関する作業部会」の作業部会長、「真実・正義・補償・再発防止の保証」に関する特別報告者、「拷問及び残忍で非人間的または屈辱的な処遇または処罰」に関する特別報告者が声明を発表し、「合意」が生存者たちの要求を満たしておらず、深刻な人権侵害に対する国家責任の基準に合致していないということ、合意の過程で被害者と支援団体との協議の過程がなかったことについて指摘した。そして、完全な責任を認めた明確な公式謝罪と十分な賠償だけが真実、正義、賠償に関する被害者たちの権利を保護することができる」と述べた。また、平和の碑は「慰安婦」という歴史的な問題と遺産を記念するだけでなく、生存者たちが長い間、正義の実現を追求してきたことを象徴しているという意義を評価し、碑の撤去要求が不当であることを指摘した。また、今回の合意過程だけでなく、その後も無視されているアジアのすべての被害者たちの期待が充足されなければならない、傷が癒さなければならないと強調した。」こういうことを報道されていない日本の現状がある。

⑧「被害者の要求を排除した合意、被害者の意志を黙殺する財団の設立を強行する韓国政府」

2015.12.28 日韓外相会談

岸田外務大臣による発表は、以下のとおり。

ア 慰安婦問題は、当時の軍の関与の下に、多数の女性の名誉と尊厳を深く傷つけた問題であり、かかる観点から、日本政府は責任を痛感している。

安倍内閣総理大臣は、日本国の内閣総理大臣として改めて、慰安婦として数多の苦痛を経験され、心身にわたり癒しがたい傷を負われた全ての方々に対し、心からおわびと反省の気持ちを表明する。

イ 日本政府は、これまでも本問題に真摯に取り組んできたところ、その経験に立って、今般、日本政府の予算により、全ての元慰安婦の方々の心の傷を癒やす措置を講じる。具体的には、韓国政府が、元慰安婦の方々の支援を目的とした財団を設立し、これに日本政府の予算で資金を一括で拠出し、日韓両政府が協力し、全ての元慰安婦の方々の名誉と尊厳の回復、心の傷の癒やしのための事業を行うこととする。

ウ 日本政府は上記を表明するとともに、上記（イ）の措置を着実に実施するとの前提で、今回の発表により、この問題が最終的かつ不可逆的に解決されることを確認する。

あわせて、日本政府は、韓国政府と共に、今後、国連等国際社会において、本問題について互いに非難・批判することは控える。

(2) 尹外交部長官による発表は、以下のとおり。

ア 韓国政府は、日本政府の表明と今回の発表に至るまでの取組を評価し、日本政府が上記 1. (1) (イ) で表明した措置が着実に実施されるとの前提で、今回の発表により、日本政府と共に、この問題が最終的かつ不可逆的に解決されることを確認する。韓国政府は、日本政府の実施する措置に協力する。

イ 韓国政府は、日本政府が在韓国日本大使館前の少女像に対し、公館の安寧・威厳の維持の観点から懸念していることを認知し、韓国政府としても、可能な対応方向について関連団体との協議を行う等を通じて、適切に解決されるよう努力する。

ウ 韓国政府は、今般日本政府の表明した措置が着実に実施されるとの前提で、日本政府と共に、今後、国連等国際社会において、本問題について互いに非難・批判することは控える。

2 なお、岸田大臣より、前述の予算措置の規模について、概ね 10 億円程度と表明した。

the hankyoreh

ハンギョレ

慰安婦ハルモニ「最終合意という言葉は私たちが何度も殺すこと」

登録：2015.12.31 02:19 修正：2016.01.03 15:12

<http://japan.hani.co.kr/arti/politics/22928.html>

韓日合意後初の「水曜集会」



日本軍慰安婦被害者ハルモニのキル・ウォンオクさん（左）とイ・ヨンスさんが 30 日午後、ソウル鍾路区中学洞の日本大使館前で開かれた今年最後の「日本軍慰安婦問題解決のための定期水曜集会」で、参加者の発言を聞いて涙を流している＝シン・ソユウン記者//ハンギョレ新聞社

「私はまだ 88 歳です。天に旅立ったハルモニ（お婆さん）たちの無念を、晴らさなければなりません。私にはできます」

故ファン・ソンスン、イ・ヒョスン、キム・ウエハン、キム・ダルソン、キム・ヨンヒ、チェ・グムソン、パク・ユニョン、チェ・ガプスン、そしてパクハルモニまで。今年亡くなった慰安婦被害者 9 人の名前が呼ばれてから舞台に立ったイ・ヨンスさんが誓った。「最終合意という言葉で、韓国政府はなぜ被害者を二度も三度も殺すのか」と、しばらく涙で言葉を詰まらせていた彼女は「最後まで、最後まで戦う」と話した。横で市民たちを見ていた別の慰安婦被害者ハルモニのキル・ウォンオクさん（87）も涙を拭いていた。

30 日、ソウル鍾路区中学洞の日本大使館の真向いにある「平和の少女像」（少女像）の前で、今年

最後の「日本軍慰安婦問題解決のための定期水曜集会」(水曜集会)が開かれた。今年にこの世を去った日本軍「慰安婦」被害者に対する追悼際として進められた水曜集会は、今年 28 日に韓日政府によって日本軍「慰安婦」被害者問題の関する合意が行われてから初めて開かれたが、“怒りと絶望”の代わりに“平和と希望”を叫ぶ声が高まっていた。

市民 1 千人参加し政府を批判

今年亡くなったイ・ヒョスンさんの息子

「無念晴らすまで戦うことを約束」

青年団体「少女像の守り役」買って出る

毎日夕方「キャンドル集会」開くことに

挺対協は全国巡回デモを計画

この日のデモには、慰安婦被害者ハルモニのイ・ヨンスさんやキル・ウォンオクさんから、小学生、そしてイ・ジョンゴル「共に民主党」(新政治民主連合から改名)院内代表、パク・ウォンソク正義党議員など、著名人と市民 1000 人(主催側の推算、警察の推算は 700 人)が集まった。「去年の春、初三日を終えて帰ってきたら、枕元に母が現われた。17 歳になった年の春先に、強制的にトラックに乗せられてから、耐え難い日々を死に切れず生きてきたとしながら、自分の無念を晴らすまで戦うことを約束してくれと言っていた」。今年 5 月にこの世を去ったイ・ヒョスンさんの息子であるイ・ドンジュ氏(64)が舞台の上に飾られた母の写真を見ながら、思母曲を詠んだ。イ氏は「母との約束を守って、戦い抜いて勝ちます」と誓った。

水曜デモ以降、慰安婦問題の真の解決のための活動も行われる。まず若者たちは“少女像の守り役”を務めることにした。韓国政府が「少女像に対する適切な解決」を言及したことについて、平和蝶ネットワークなどの慰安婦問題解決のための青年団体は、水曜デモが 24 周年を迎える来年 1 月 6 日まで、毎日夕方 6 時に少女像の前でキャンドル集会を続ける。韓国挺身隊問題対策協議会(挺対協)も、日本の法的責任と真の謝罪を引き出すための活動を続けていく。ユン・ミヒャン挺対協常任代表は「全国平和碑(少女像)ネットワークを作り、慰安婦平和碑がある全国各地を回って巡回水曜デモを開くことにした。国際連帯体も設立し、世界各地の人権蹂躪があるところに平和碑を建てるとし「私たちは、正義が覆された状況でも楽しく笑いながら、平和と希望の道を歩んでいけることを知らしめる」と述べた。

これに先立ち、民主主義国民行動、市民社会団体連帯会議などは、この日少女像の前で記者会見を開き、韓日政府の慰安婦問題に関する合意を糾弾した。少女像を製作した彫刻家のキム・ウンソン氏は「少女像には、日本に対する糾弾も込められているが、それよりも、私たちが長い間、慰安婦被害者にどのような態度を取ってきたのかを反省する作品だ。日本の要求に応じて撤去するなんて、とんでもない。少女像の踵はまだ土地を踏むことができない」と述べた。革新性向の作家たちの集まりである韓国作家会議も、韓日政府の慰安婦の合意を批判する声明を出して合意の破棄を求めた。

パン・ジュンホ記者(お問い合わせ japan@hani.co.kr)

韓国語原文入力: 2015-12-30 19:23

http://www.hani.co.kr/arti/society/society_general/724147.html 訳 H.J

〔記者手帳〕歴史に最終的かつ不可逆的な解決はない

登録：2015.12.30 01:51 修正：2015.12.30 06:06

<http://japan.hani.co.kr/arti/opinion/22918.html>



日本慰安婦被害者ハルモニのイ・ヨンスさん（右）が 29 日午後、慰安婦被害者問題をめぐる韓日外相会談の合意案を説明するために、ソウルの挺身隊問題対策協議会を訪れたイム・ソンナム外交部第 1 次官に、政府の一方的な結果発表を批判している＝共同取材写真//ハンギョレ新聞社

1970年12月7日午前7時、ポーランドのワルシャワにあるジャメンホッフア街のユダヤ人慰霊塔。初冬の雨が涙のように慰霊塔をぬらしていた。西ドイツのヴィリー・ブランド首相が、その慰霊等の前に立った。1943年のワルシャワのゲットーでナチスに対抗し、28日間蜂起したものの、惨殺された約5万6000人のユダヤ人たちを追悼するための塔だ。しばらく頭を下げていたブランド首相が後ずりした。儀礼的な参拝が終わったと思った一部の記者たちも、その場を去ろうとした。その時、ブランド首相が慰霊塔の前で突然跪いた。カメラのフラッシュが凄まじい勢いで光を放った。ブランド首相は何も言わなかった。西ドイツがポーランドとの関係正常化のためにワルシャワ条約を結ぶこと

リブ・イン・ピース☆9+25@カフェ (2016.7.31)

になっていた同日の朝、ブランド首相はナチスドイツの過ちについて全身で謝罪したのだ。ナチの強制収容所の生存者だった当時のポーランドのユゼフ・ツィランキエヴィチ首相は、次の目的地に移動する車の中でブランド首相と抱き合っ泣いた。彼は言った。「許す。しかし、忘れない (Forgivable、but Unforgettable)」。その後ポーランド人はワルシャワにブランド広場を作って、跪いたブランド首相の姿を収めた記念碑を立てた。謝罪と許すこと、そして和解とは、このようにするものだ。

ドイツが永遠の反省を誓ったように

歴史は終止符のない省察の対象

1回のリップサービスで終わるものではない

少女像の移転の受容も「早まった判断」



ヴィリー・ブランド西ドイツ首相が 1970 年 12 月、ポーランド・ワルシャワのユダヤ人ゲットー追悼碑の前で跪いたまま、ナチスの残酷な犠牲にされた人々を追悼している＝資料写真//ハンギョレ新聞社

2015 年 5 月 3 日、ドイツのメルケル首相が最初のナチス強制収容所であるドイツ・バイエルン州のダッハウ収容所を訪れた。この日も、小雨が降っていた。メルケル首相は追悼の辞でこう誓った。「私たちは被害者と自分自身と、将来の世代のために、これを忘れない」。メルケル首相は前日の第二次世界大戦終戦 70 年に合わせて公開したビデオメッセージで「歴史に終止符はない」と宣言した。

ポーランドのアウシュビッツ収容所の解放70年記念日を翌日に控えた1月26日にベルリンで行った演説では、「ナチスの蛮行を憶えていなければならないのは、ドイツ人の永遠の責務」だと宣言した。

半世紀前にブランド首相がすでに謝罪して“許し”を得たが、ドイツは謝罪と反省を止めない。ユダヤ人たちはホロコーストを記憶することを止めない。歴史の省察と反省とは、このようにするものだ。歴史とはたゆまぬ省察の対象であって、核兵器のように不可逆的な廃棄の対象にはなり得ないからだ。

2015年12月28日、朴槿恵（パク・クネ）政権と安倍晋三政権は日本軍「慰安婦」被害者の問題の「最終的かつ不可逆的な解決」を宣言した。その直後、安倍首相は首相官邸で行われた記者会見で「おわび」と「反省」には触れず、「先の世代の子供たちに謝罪し続ける宿命を背負わせるわけにはいかない」と強調した。安倍首相は「合意に『最終的かつ不可逆的な』という文言が盛り込まれない場合は、交渉をやめて帰ってくるように」と岸田文雄外相に指示したという（読売新聞29日付）。岸田外相は、日本の記者団に「(日本政府の予算拠出は)賠償ではない。道義的責任ということに変わりはない。(今回の交渉で日本側が)失ったものがあるとすれば、10億円だろう。予算から拠出するものだから」と述べた。

日本側の関心事は、法的責任を認めることや謝罪、反省ではない。ただ“10億円とリップサービスの代わりに、二度と韓国がこの問題を口にしないようにする”ということだけだ。

にもかかわらず、ユン・ビョンセ外交部長官は「交渉の妥結を嬉しく思う」と述べており、外交部の高官は「今の状況で最善の案」だと自賛した。今回の合意を最終決定した朴槿恵大統領は「韓日関係の改善と大乘的見地」を掲げて「被害者の方々と国民の理解」を求めた。「被害者と国民が納得できるレベルの合意」を口が酸っぱくなるほど強調してきた朴槿恵政権が「(発表内容を)全部無視する」(イ・ヨンスさん)、「あんなに苦勞して待ち続けたのに...私たちは、お金よりも名誉を回復してもらいたい」(イ・オクソンさん)という、被害者ハルモニ(お婆さん)たちの悲痛の叫びになんと答えるかが気になる。国際人権法や規範によると、加害国と被害国の政府が「被害者の同意なく」その被害について合意することはできない。

朴槿恵政権のホコリのような軽薄な歴史認識は、日本大使館前の「平和の少女像」を撤去と移転を求める安倍政府の要求を、事実上受け入れたことにも表れている。政府関係者と一部の専門家たちは、この問題を「枝葉末節、付随的事案」と見なしている。しかし、「平和の少女像」は「(1210回にわたる)水曜集会の精神を称える生きた歴史の象徴」(挺対協声明)であると共に、歴史を省察する世界市民の切実な心が込められた歴史の証言者でもある。決して枝葉末節ではない。

イ・ジェフン記者(お問い合わせ japan@hani.co.kr)

韓国語原文入力: 2015-12-29 19:40

<http://www.hani.co.kr/arti/politics/diplomacy/723975.html> 訳 H.J

[コラム] 平和の道に咲く慰安婦ハルモニのキキョウ

登録：2016.01.13 09:38 修正：2016.01.13 09:38



慰安婦ハルモニたちの周りにキキョウの花が咲く＝イリムニキ//ハンギョレ新聞社

<イ・ヨンスさんは抵抗すると管理者に電話のコードで電気拷問をされ、失神を繰り返した。キム・クンジャさんは日本軍将校の要求を断ると殴られ、右の耳の鼓膜が破れた。抵抗したチョン・ソウンさんはモルヒネの注射を強制的に打たれた。こうして蹂躪され気力が尽きると“廃棄”される。日本帝国主義（日帝）は植民地朝鮮を収奪し、朝鮮半島で民衆を収奪し、最終的には貧しい少女たちを収奪した。彼女たちはそのすべての矛盾を背負って性奴隷として引きずられて行かねばならなかった。その少女たちが九十を迎えている。彼女たちは今、世の娘たちを守るハルモニ（お婆さん）、命と平和を守るハルモニになった。>

今年に入りソウルが最も寒かった 11 日夜、ソウル鍾路区の栗谷路（ユルゴンノ）2 通り。身を切る寒さの中、数十人の大学生が野宿の座り込みを続け 13 日目になっていた。毛布の中に足と手を入れているが、寒さの中で顔は蒼白になっていた。何度か空に響いた笑い声とともに、彼ら彼女らの目が輝いていた。星、凍土に降り注いだ小さな星のように。

大学生の背後で機動警察 10 人余りが 2 列縦隊で並び、その後には機動隊のバスがエンジン音を出

しながら排気ガスを吐き出していた。バスの中には無線機を持つ私服警察が睨みをきかしているのだろう。12・28 合意の廃棄と「人に対する礼儀」を求める小さな横断幕が風になびいていた。未曾有の女性人権蹂躪を 10 億円で抹消しようとする者たちは、こうして若者たちを取り囲んでいた。平和を念願する少女像がいかにも寒く孤独に見えた。周りには現代的なビルが聳えているが、この国の凍土が変わることはなかった。

ふと、ハルモニたちが血の涙を飲んで証言した、70 年ほど前の朝鮮の状況が重なった。その時も日帝の手先は、娘たちを供出する実績を上げるため血眼だった。名家の者たちは、朝鮮の青年と少女を戦場に送りだそうと扇動したし、里長や区長など一線の附逆者（反民族行為者）らは、率先して村の女の子たちを騙して日本軍慰安所に送った。ちょうどこの日の昼、外交部の役人たちは一人身で暮らす慰安婦ハルモニをこっそりと訪ね、甘言でそそのかそうとしたとか。12 歳の少女だったチョン・ソウンさん、16 歳の少女だったイ・ヨンスさんを騙して日本軍性奴隷として引き渡した、あの里長のよ様な附逆者。

朝鮮人附逆者に、国民服に戦闘帽をかぶる日本人に引き渡されたイ・ヨンスさんは、慶州のある旅館前の小川のほとりで見た、清楚で実直なキキョウの姿を忘れることができない。ハルモニは平安道の安州を経て、中国の大連で軍用貨物船に乗せられ台湾に連れていかれた。ハルモニのその小さな花は、この船底の貨物室で踏みにじられ始める。「輸送中の船内では使用禁止」という警告は装飾用に過ぎなかった。イ・ヨンスさんはこうして蹂躪されたのだが、その花をいつまでも忘れることができなかった。五つの花びらには、故郷、母、父、友だちの面影が深く刻まれていた。

偶然にも日帝の関東軍司令部は、ハルモニたちが連れていかれる 3 年前の 1941 年、朝鮮総督府に「キキョウ」2 万本を注文した。16 歳から 19 歳の経験のない朝鮮の女を指す暗号だった。総督府は総力をあげて娘の供出を始めた。里長、班長まで動員して山間僻地まで根こそぎにした。学校では教師たちが率先して「貧しいけど元気な子」を選別した。ソウルの方山初等学校のある日本人教師は、自分の組から 6 人の子供を送った。民間斡旋業者は「多い報酬、良い食事、気楽な仕事提供」と女性たちを騙した。

日本軍の徴募目標値は軍人 29 人当り娘 1 人。計算通りなら 30 万人にもなる規模だ。本土の女性には供出対象にはならず、交戦中の現地女性は現地人の抵抗を招く恐れもあり、日本軍は植民地朝鮮に注目した。貨物車、輸送船に載せられた少女たちは“軍需物資”として分類された。台湾のある慰安所に着いたイ・ヨンスさんは抵抗した。管理者は電話機のコードで電気拷問を強いた。何回も失神を繰り返した。中国の琿春に連れていかれたキム・クンジャさんは、日本軍将校の要求を断ると殴られ、右の耳の鼓膜が破れた。抵抗したチョン・ソウンさんにはモルヒネ注射が強制的に投与された。

こうして性奴隷にされたハルモニたちは 1 日平均 30 人、多い日は 100 人まで日本軍の相手をさせられた。常習的な暴力にも苦しめられた。ムン・オクチュさんは刀を持ち駆け寄り軍人から逃げ、落ちた刀でその軍人を刺し殺してしまった。ここまで蹂躪された挙げ句に気力が尽きれば“廃棄”される。「(モルヒネの)注射でさえ効果が出ないと思われる」と、むしろに包んで捨てしまった(イ・オクブンさん)。中国牡丹江の戦線に連れていかれたカン・イルチュルさんは、腸チフスで高熱に苦しめられ日本軍の相手ができなくなると、軍用トラックに乗せられ山の中で捨てられた。日本軍がむしろでくろんで焼こうとしていた瞬間、天の助けで朝鮮人が現れ一命をとりとめた。敗走する際には証拠をなくすため虐殺した。防空壕に集めて爆弾を投げたり、故郷に戻してやると船に乗せ、その船を爆破することさえした。生き残った慰安婦が 4 人に 1 人しかいなかったのはそのためだった。軍人の生存率より低かった。

幸い戻れたとしても、故郷はかつての故郷ではなかった。親戚は「一族の恥」と追い出し、隣人は「売女」と後ろ指をした。1991 年 8 月、金学順 (キムハクスン) さんが初めて自分の経験を証言し

た時、多少なり力のある者は「民族の恥」と切り捨てた。だからユン・スンマンさんは「まともな女になれない」自分を嫌悪して生きていくしかなかった。ノ・スボクさんやフンさんは帰郷を諦め、中国やカンボジアの現地で住み着いた。「結婚？とんでもない…」。ハルモニたちはそうやって自分たちを追い詰めていくほかなかった。

それでもイ・ヨンスさんの場合、女性として生まれウェディングドレスのベールをかぶれないのが悔しくてならなかった。還暦になった年に 75 歳のお爺さんと結婚した。心の中で咲くことがなかった花を、一度咲かせてみたかった。老人を選んだのは男性が嫌いだからだった。16 歳で連れていかれたカン・イルチュルさんは 10 本の指に真っ赤なマニキュアを毎日塗った。「おしやれをしたい年齢に連れていかれたのが悔しくて…」。ムン・オクチュさんは 1993 年に日本で証言した時、薄紅色チマチョゴリを着て報道陣の前に立った。日本の記者がその理由を尋ねた。「日本軍に蹂躪された少女の夢はまだこのお婆さんの胸中にあります」。ハルモニの代わりに韓国挺身隊問題対策協議会(挺身隊対策協)の担当者が返事をした。そこでナムヌの家でボランティアをするチェ・チョングオンさんは、2001 年 1 月 17 日に「ウェディングドレスを着るのが一生の願い」だったハルモニのためにウェディングドレス着せてあげ、「若い新郎」たちと一緒にエバーランドに新婚旅行に行くイベントを斡旋した。

金学順さんの初の証言以来、ハルモニたちは勇気を出した。キム・ドクチャさん、イ・ヨンスさん、ファン・グンジュさん、ムン・ピルギさん、イ・ヨンスさんなどの証言が相次いだ。こうして世に出たハルモニたちは、過去のその自責から抜け出し始める。自分たちの恨みをはらすためではない。世の女性たちが再びあんな性奴隷の戦争犯罪の犠牲にはならなかった。挺身隊対策協は 1992 年 1 月 8 日、初の水曜デモを開いた。ハルモニたちは当初はちぐはぐだったが、7 回目から徐々にその中心に立ち始めた。

韓国でも日本でも、為政者たちは、どうせ一回だけで終わるだろうと楽観した。「慰安婦」という致命的な恥を顧みず街に出て来ることなどできようか。ところが、それは錯誤だった。どれほどハルモニたちの恨みが大きかったのか、この地の娘たちを守りたいとするハルモニの意志がどれほど強かったのか、無知だった。ハルモニの叫びと行進は 24 年も続き、すでに世界じゅうに広がっている。1000 回目となった 2011 年 12 月 14 日には 9 カ国 43 都市でデモが同時に行われ、24 年目の 1212 回目のデモ(1 月 6 日)には 16 カ国 42 都市の市民が共に行動した。

1992 年にアジア連帯会議が結成され、1996 年に国連人権委員会は女性に対する暴力問題の特別報告書を採用し、1998 年には組織的強姦、性奴隷、奴隷的取り扱いの慣行に関する特別報告書を採用した。国際労働機構は日本軍慰安所運営を性奴隷制と規定した。2000 年には日本軍性奴隷戦犯女性国際法廷が開かれ、2007 年には「慰安婦決議案」が米議会を通過した。

世の苦痛は最終的に弱者に転嫁される。日帝は植民地朝鮮を収奪し、朝鮮半島で民衆を収奪し、最終的には貧しい少女たちを収奪した。彼女たちは、そのすべての矛盾を背負って性奴隷として連れていかれなくてはならなかった。その少女たちが九十になろうとしている。

彼女たちは今、世の女性たちを守るハルモニ、命と平和を守るハルモニになった。彼女たちが女性人権の聖所として守ってきた栗谷路 2 通りの「平和の道」は、この地の若者たちが守るようになった。キキョウはそうして今も咲いている。平和の道の途中に少女像があり、その向い側には駐韓日本大使館がある。

クァク・ビョンチャン 前任論説委員 (お問い合わせ japan@hani.co.kr)

韓国語原文入力 : 2016-01-12 21:38



ソウル編：慰安婦問題の解決を求めて---1000 回目のソウル水曜デモ 2011.12.14

2012.02.03 Fri

<http://wan.or.jp/article/show/4090>

1991 年 8 月に金学順（キム・ハクスン）さん始め、かつて「慰安婦」とされた女性たちが自ら声を上げ始めた。それ以前にも、戦後日本社会のそこかしこで「慰安婦」の存在は、大きな声ではないが語られていた。兵士たちの証言、時に美化された「慰安婦」との思い出など。

たとえば、『総員玉砕せよ！』の「あとがき」で、「ぼくは戦記物をかくとわけのわからない怒りがこみ上げて来て仕方がない。多分戦死者の霊がそうさせるのではないかと思う」と書いた水木しげるも、自らの体験をもとに、慰安所の様子を克明に記している(同書: 14・15 頁)。そこでは、慰安所（といっても、掘っ立て小屋のようなもの）の前の長い行列を見て「一人三十秒だぞ」と叫ぶ兵士や、「ねえちゃんあと七十人位だがまんしてけれ」という兵士が描かれている。当時の日本軍がいかに最前線にまで慰安所を設置していたかのを示す、貴重な歴史的証言である。

これまで日本社会ではひっそりとささやかれ、戦後忘れ去られそうになっていた「慰安婦」の存在は、91 年以降その在り方を大きく変えた。つまり、当事者自身が自らの体験を語り始めたのだ。戦後自らの体験を家族にも語るができず、韓国社会でもタブー視されていた日本軍「慰安婦」制度は、性奴隷制度に他ならなかったことを「慰安婦」にされた女性たち自身が語り始めたのだ。

1992 年 1 月に、ソウル市日本大使館前で、「慰安婦」にされた女性たちとその支援者たちは、お昼休みで人々が行きかう通りでデモを始めた。彼女たちの思いは一つ、過去に自らになされた加害の事実を認め、一人ひとりに日本政府が謝罪することだ。謝罪とは、彼女たちが被った危害を歴史的事実として教育をはじめしっかりと国民に周知・記憶させ、二度と同じ過ちを犯さないように未来に向かって誓うこと、未だ法的には解決されていないことを公式に認めることである。

それから 1,000 回。20 年間もの間、毎水曜日に彼女たちは同じ行動をとり続けた。毎週 1,000 回だ。2011 年 12 月 14 日、このデモは 1,000 回目を迎えた。日本でも同時行動が各地で開催されたが、さまざまな暴言もこの行動に対して向けられた。

大阪では、日本政府でさえ公式文書をもとに「慰安所・慰安婦」の存在を認めているというのに、重い沈黙を破って語りだした勇氣ある女性たちに対して、「嘘つき」だと大声で怒鳴るひとびとがいた。その暴言に対して、ある高校生は、「わたしも嘘であってほしいと思います」と応じたという。本当にそうである。「慰安婦」にされた女性たちがもっとも、彼女たちの悲惨な経験が単なる悪夢であったらどんなによかったかと思っているに違いない。

ソウルで 1,000 回目を迎えたその日、司会のクォン・ヘヒョさんは、「ハルモニたちの願いは、来週は水曜日デモを開催しなくてよくなること」と表現した。



そして、三人の女優たちは、ハルモニたちの想いを、以下の詩に託した。

私たちの話は私たちの頭の中だけに存在する
蹂躪された私たちの体の中にだけ、戦争の時間と
ぽっかり空いた空間の中だけに
どんな公式の記録も、文書も足跡もない
ただ良心だけ、ただそれだけ
私たちが言われたことは
私が彼らについていけば、お父さんを助けられる、
仕事もらえる、国のために働くことができる
行かなければおまえを殺す、ここよりずっとよいところだ
私たちが発見したこと
そこには山も木も水もなく、
黄砂、砂漠、目に涙がいっぱい、我慢をしている
数千人の不安に震える少女たち
私のおさげ髪は切り取られ、下着を着る時間もなかった。
私たちがしなければならなかったこと
名前を変えること
ボタンを開けやすいワンピースを着ること
一日に 50 人の軍人の相手をする事
生理の時も休めず
あまりに多くの男の相手をして歩けなくなったにも関わらず
それでも相手をしなければならなかった
足を伸ばせず、体をかがめることができなくても
それでも相手をしなければならなかった
彼らが私たちに繰り返し行ったことは
暴言を吐き、殴り、血だらけになるほど痛めつけたあげくに
消毒し、注射を打ち、そしてまた殴り、体に数多くの穴を開けたこと
私たちが見たことは

浴室で化学薬品を飲んだ少女
爆弾を受け死んだ少女
銃剣で打ちのめされた少女
壁に頭をぶつけた少女
溺死するほど川に何度も投げ入れられ、栄養失調にかかった少女の体
私たちに許されなかったこと
体を洗うこと、出歩くこと、医師の診察を受けること、
コンドームを使うこと、逃げること、赤子を守ること、
やめてということ
私たちがもらったもの
マラリア、梅毒、淋病、死産、結核、心臓病、全身発作、うつ病
私たちが食べたもの
ご飯、味噌汁、大根の漬物、ご飯、味噌汁、大根の漬物、ご飯、
ご飯、ご飯
私たちがされたこと
破壊され、道具にされ、不妊になり、穴になり、
血だらけになり、肉のかたまりになり、追放され、
沈黙され、一人ぼっちになったこと
私たちに残されたもの
決して消えない衝撃、死んだお父さん、無賃金
多くの傷、男への憎しみ
子どももなく、家もない、ぽっかり空いた子宮
飲んだくれになったこと、罪の意識と羞恥心
何にもない、何にもない
私たちに付けられた名前
慰安婦、墮落した女たち
私たちが感じたこと
私たちの心はいまなお震えている
私たちが奪われたもの
お金、私の人生
私たちは今 74 歳、82 歳、93 歳
目も悪く足取りも遅いが準備はできている
毎週水曜日、日本大使館の前で
もう何も怖くない
私たちが望むこと
今すぐに、私たちの話が消える前に
私たちが死ぬ前に
言え日本政府よ！
慰安婦女性にごめんなさいと
私に言え、私に、私に、私に、私に言え、
ごめんなさいと言え、ごめんなさいと
(訳：カン・ヒデ、文責：岡野八代)

平壤日記 PYONGYANG DIARY

日本人ジャーナリストによる北朝鮮の最新情報

北朝鮮の日本軍「慰安婦」問題は放置されたまま

<http://kodawarijournalist.blog.fc2.com/blog-entry-61.html>



北朝鮮で名乗り出た朴英深（パク・ヨンシム）さん。中国・昆明の捕虜収容所で米軍が撮影した記録写真の右端に写っている（2000年9月12日撮影）

12月28日にソウルで日韓外相会談が行われ、「合意」文書が発表された。岸田文雄外相は、政府予算から10億円程度を拠出して設立する新たな「財団」による被害女性への支援は「賠償ではない」と明言した。

安倍政権と朴槿恵（パク・クネ）政権の双方が大きな譲歩をした最大の理由は、日米韓の軍事同盟強化をはかる米国の強い圧力によるものだ。

この「合意」での日本政府の姿勢をひと言でいえば、再び金を出すので韓国は2度とこの問題を蒸し返すなということだ。そもそも被害女性たちは、韓国の政府・地方自治体などによるさまざまな支援を受けており、日本からの金を必要としているような人はいない。

日本政府は1995年、「アジア女性基金」を発足させ民間からの募金を被害女性たちに渡す事業を実施。だが日本政府の謝罪の気持が伝わらない「基金」は、韓国やフィリピンでは受け取り拒否が続出。

そればかりか、名乗り出てからは互いに慰めあって暮していた被害女性たちに深刻な分裂をもたらした。にもかかわらず、財団の運用は韓国政府がおこなうものの、日本政府は再び中途半端な事業をしようとしている。

韓国政府に登録された被害女性は238人で、生存者はもはや46人しかいない。死を目前にした彼女たちは、日本政府からの明確な謝罪を受けることで心安く死を迎えたいという思いなのだ。

そのため、「謝罪」は首相の「手紙」などではなく、国会決議といった日本の国家としての意思を示

す形で行われるべきだ。韓国国内では、大きな妥協をした朴槿恵大統領への大きな批判が起こるだろう。

私は、韓国で金学順（キム・ハクスン）さんが名乗り出た 1992 年から、韓国・北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）・台湾・フィリピン・インドネシアなどをひんぱんに訪れ、約 90 人の被害女性たちを取材。

日韓間では、内容に大きな問題があるにせよ日本軍「慰安婦」問題が協議された。ところが、日本政府がまったく無視しているのが北朝鮮である。

「アジア女性基金」の北朝鮮での実施について、受け入れを打診するためにある民間人が訪朝したことはあるが、日本政府は協議さえ行なわなかった。北朝鮮と同じように国交のない台湾に対しては、「アジア女性基金」や被爆者への援護措置は実施されている。

つまり日本政府は、北朝鮮に対しては何もしようとしていないのである。これは政策というよりも、敵対する国家である北朝鮮との厄介な外交交渉を、政権・政治家と官僚が後回しにしているということだろう。その姿勢は「拉致問題」にも表れている。

韓国にて「韓日日本軍慰安婦合意の無効化と正義の解決のための全国行動」、「日本軍慰安婦の正義と記憶財団」設立についてのニュースの抜粋

383 団体が声を一つに「慰安婦韓日合意を破棄せよ」…3・1 街頭行進、日本軍慰安婦の正義と記憶財団設立

[2016-01-15 06:31:26](#) | [戦時中性奴隷](#) [慰安婦](#)



民衆の声 洪ミンチョル記者 2016.1.14

...

市民社会陣営が「韓日日本軍慰安婦合意の無効化と正義の解決のための全国行動」(全国行動)を発足させ、対政府共同対応に突入した。

韓国挺身隊問題対策協議会をはじめ、参与連帯、民主労総、韓国進歩陣営、アイコープ生協、全国農民会総連盟、平和ナビネットワークなど 383 の市民社会・労働・農民・宗教・学生団体の代表は、14 日、ソウル・プレスセンター20 階の国際会議場で時局会議を開催し、全国行動を発足させた。

財団設立の提案者は、慰安婦被害者である金福童ハルモニで、第 1 号設立受諾書の提出者は、慰安婦被害者である李容洙ハルモニだった。

財団の設立を提案した金福童ハルモニは、この日の時局会議に出席して、「私たちは絶対にこのような金(日本政府の財団設立支援金)を受け取ることはできない」として、「国民の皆さんが手伝ってくれば、私たちは、日本政府が正式に謝罪して法的な賠償をする時まで、最後まで戦う」と語った。

金ハルモニは、「私の歳は 91 歳だが、これだけ長生きしても解決はしていない。先に亡くなったハルモニたちが天国でどれほど泣いていることか」と述べ、「生きている間に私たちが解決をしなければならない」と強調した。財団の設立を手伝いたい個人や団体は、韓国挺身隊問題対策協議会や慰安婦被害者のための商品を開発して販売してきたマリモンドに連絡すればよい。

日本政府の 10 億円は受け取らない…「慰安婦」正義記憶財団に募金相次ぐ

登録：2016.01.19 23:10 修正：2016.01.20

ハンギョレ新聞抜粋

正義と記憶財団基金に参加者殺到

5 日間で 529 人が参加、509 万円集まる

6 枚の手紙に心込めた運転代行ドライバー...

少女像の建立に賞金を送った高校生...

日本人を含む国内外からも声援



日本軍性奴隷制問題解決のための正義記憶財団設立宣言文

子どもたちは平和な世界で暮らさなければなりません。そのために私は今もここに立っています。毎週水曜日には街頭に立ち、遠い国まで問題を知らせに行きます。日本政府に求めているのは、お腹がすいたからご飯をくれと言っているわけではありません。私は日本政府に、歴史の真実を公開し、正直に間違いを認め、公式謝罪し法的賠償することを要求しました。再び戦争をしてはならないと要求しました。だからこそ、12月28日、胸が痛かったのです。 —吉元玉ハルモニ—

昨年 12 月 28 日、日本政府は戦争犯罪認定でも、公式謝罪と法的賠償でもない内容で、最終的で不可逆的解決をしようとしてきました。そして、韓国政府もこの解決案に合意しました。これは正しくありません。私たちは日本軍性奴隷問題の正義の解決のため、被害者と手をつなぎました。1991 年 8 月 14

日、故金学順ハルモニの勇気ある証言から世界に広く知られた日本軍性奴隷問題、この問題の真の解決のためハルモニたちが絶えず叫んできたメッセージは明確です。日本軍性奴隷被害者の名誉と人権を回復し、再び同じ悲劇を繰り返してはならないということです。ハルモニたちは 26 年以上街頭に立ち水曜デモで叫び、10 年以上裁判を行ってきました。

「子どもたちは平和な世界で暮らさなければなりません」と語ったキル・ウォノクハルモニ。「二度と戦争をしてはいけない。裁判に負けても、オレの心は負けてない」と堂々と歴史の生き証人となったソン・シンドハルモニ。こうして名乗り出たハルモニたちは、再び同じ悲劇が繰り返されてはならないという信念をもって、全世界で平和人権運動を繰り広げるだけでなく、次世代のための奨学金でまた別の戦争被害女性をサポートするナビ基金を設立しました。

和解と癒しという名目の「支援金」で辛い歴史を終結させることは、ハルモニの意思を継承する道ではありません。ハルモニが本当に望んでいることは、子どもたちに日本軍「慰安婦」の歴史を正しく教え、今も戦争に苦しむ女性と子どもを支援し、私たちすべてが平和と人権に向かうことです。

今日、私たちはこの声を継承し辛い歴史を正しく記憶し、日本軍性奴隷問題を正しく解決するための「正義記憶財団」設立総会の中にいます。

財団は、日本軍性奴隷問題の犯罪認定、真相究明、公式謝罪、法的賠償、責任者処罰などを通じた正義の解決をなすことで、被害者の名誉と人権回復に寄与し、未来世代が日本軍性奴隷問題を正しく記憶するよう歴史教育および追悼事業などを行います。ひいては、武力葛藤および戦時性暴力再発防止と被害者の人権回復に寄与します。

これからが始まりです。日本軍性奴隷被害者を正しく記憶するための活動、より多くの市民の参与を通じた問題の正しい解決のため、正義記憶財団は次のとおり事業を行っていきます。

市民の参与を通じた正義記憶財団事業

1. 日本軍性奴隷被害者福祉および支援事業
2. 日本軍性奴隷問題に対する真相究明と記録保存および研究事業
3. 日本軍性奴隷問題に対する教育および出版事業
4. 日本軍性奴隷問題に対する国内外広報および募金事業
5. 平和の碑（平和の少女像）建設および追悼事業
6. 戦時性暴力被害女性および児童支援事業
7. 未来世代のための奨学事業

すべての人々が渴望する日本軍性奴隷問題の正義の解決と次世代のための平和な世界をつくりましょう。

被害者の名誉と人権を回復し！／この地に再び戦争のない！／手をつなぎ、ともに、平和な世界へ！

2016年6月9日

日本軍性奴隷問題解決のための正義記憶財団

全国行動抗議声明

被害者を欺き分断する「和解・癒し財団」に抗議する

本日、「12.28日韓政府間合意（以下、「合意」）」に基づく財団が発足した。「和解・癒し財団」と名付けられたこの財団は、「合意」に反対する被害者と市民を置き去りにして、両政府だけが「和解」する奇妙な様相を見せている。

1. 財団設立に至る韓国政府と財団関係者のふるまいは、被害者への「癒し」にならない。

報道によると、韓国政府は「合意」後、被害者と被害者家族に会い、「10億円は事実上の賠償金だ」という説明をして回ったという。これは、「このお金は賠償あるいは償い金、こうしたものではありません」（3月17日参議院外交防衛委員会での岸田外相の答弁）という日本政府の立場とは明らかに異なるものだ。

5月31日、「財団設立準備委員会」発足記者会見で金兌玄委員長が「10億円は賠償金ではない。被害者の傷を癒し名誉を尊重するというレベルで、賠償金と見るのは難しい」と発言したことの方が、日本政府の意図を正確に読み取っていると言えよう。しかし、韓国政府の説明と異なる発言をした金委員長は、2日後には「（日本が）法的責任を認めて、被害者の心の傷を癒し、その癒しを通して結局賠償したという、そういう意味で抛出すると見ればいい」と苦しい弁明に転じた。

まさに、被害者不在のまま政府間での政治決着を急いだ「合意」のほころびが如実に現れた一例だ。

また、本日の発足式に出席させるため、被害者らに発足式であることは告げずに「昼食をご馳走する」とだけ説明したという報道もある。「具合が悪くて行けない」「記者が来て写真を撮られるのではないか、写真は絶対にダメだ」等と難色を示すと、「来なければお金が出ない」とまで言われたと主張する被害者もいる。政府と財団は否定しているが、同じような内容の情報が複数の被害者から支援団体に寄せられており、事実無根とは考えにくい。まさに、被害者への「癒し」とは全く逆の「強要」のレベルに至っていると言えるのではないか。

2. 被害国政府に責任を押しつけ「平和の碑」の撤去にのみこだわる日本政府が、「責任を痛感」していると誰が信じるだろうか。

何よりも恥ずかしく許しがたいのは、被害国政府に責任を押しつけて高みの見物を決め込む日本政府の姿勢だ。「責任を痛感」し「心からのお詫びと反省の気持ちを表明する」と言うならば、その気持ちに基づいてすべきことは、何に責任を感じ、何を反省しているのかを、国内的にも国際的にも明確に示していくことであるはずだ。つまり、日本軍「慰安婦」問題の歴史的事実を究明し、その事実を人々に知らせ教育し、二度と同じことが繰り返されないように教訓にしていくための取り組みこそが求められているのである。

ところが日本政府が「合意」後にとってきた姿勢は真逆だ。2月の国連女子差別撤廃委員会では「軍や官憲によるいわゆる強制連行を確認できる資料はなかった」等と発言し、8カ国の市民団体と英国戦争記念館が日本軍「慰安婦」関連記録物をユネスコの記憶遺産に登録申請したことについても「記憶遺産事業が政治利用されることがないように、制度改革を含め引き続き全力で対応していきたい」（6月2日、菅官房長官）と述べるなど、日本軍「慰安婦」問題を人類の教訓にしようとする国際的な動きに真っ向から対立する姿勢を見せている。

その一方で、日本政府とメディアが関心を示すのは、ソウルの日本大使館前に設置された「平和の碑」（少女像の正式名称）の移転のみである。繰り返し言うが、「平和の碑」には「1992年1月8日、日本軍「慰安婦」問題解決のための水曜デモが、ここ日本大使館前ではじまった。2011年12月14日、

1000回を迎えるにあたり、その崇高な精神と歴史を引き継ぐため、ここに平和の碑を建立する」とだけ書かれており、日本を非難したり侮辱したりする何らの内容も刻まれていない。「慰安婦」被害女性たちの歴史、平和、希望、連帯、解決を待ちわびる思いを込めて設置されたものだ。これを共に守っていくことこそが、「反省」の気持ちが真実であることを世界と歴史に示すことなのである。にもかかわらず、その移転・撤去にのみ執着する姿は、「合意」で語られた「お詫びと反省」が「最終的・不可逆的解決」なる「慰安婦」問題の抹消をめざす方便にすぎないことを、あまりにも如実に語っている。

3. 日韓両政府は、全ての被害者が受け入れられる解決策を示せ

本日発足した「和解・癒し財団」は、その名に反して、被害者を分断し新たな不和をもたらしている。「合意」に明確に反対を表明する韓国の被害者たちの意思は無視され、フィリピン、台湾、中国、インドネシア、東ティモール、朝鮮民主主義人民共和国、オランダ等の被害者らは、そもそも「合意」から完全に排除されているからだ。

全ての不協和音は、「責任」を口にしながら「責任」を回避する日本政府の無責任な姿勢から生じている。そして、今や韓国政府が前言を翻し、日本政府による歴史の否定、つまりさらなる人権侵害を等閑視してでも「合意」を推進する態度は見るに堪えない。

日韓両政府は、被害者間に分断をもたらす「和解・癒し財団」を推進するのではなく、全ての被害者が受け入れられる国際人権基準に基づいた被害回復の途を示さなければならない。このまま「合意」による「最終的・不可逆的解決」を強引に推し進めれば、「和解」どころか、歴史に取り返しのつかない禍根を残すことになる。日韓両政府は、全ての被害者の声に耳を傾けなければならない。

2016年7月28日

日本軍「慰安婦」問題解決全国行動

<声明>

誰のための「和解・癒し財団」なのか
朴槿恵政府は被害者の叫びを聞きいれよ

朴槿恵政府は、何が何でも歴史正義に背くつもりなのか。

10億円で取引を終えた政府の暴走は、今日の「和解・癒し財団」発足強行にまで至った。歴史に二度とありえない屈辱の日本軍「慰安婦」合意には、被害者があれほど念願し要求した日本政府の明確で誠実な謝罪と法的賠償などの措置は全く含まれなかった。にもかかわらず、この合意を強行するという執念の政府によって、正義も人権も正しい過去清算もすべて消え去ってしまった。

被害者の嘆きと血のにじんだ絶叫が解放（終戦）から71年経った現在まで続いているが、その声を聞くことができないのは日本政府だけではなかった。被害者に後ろ指をさし犯罪を否認する日本の右派だけではなかった。それらに次ぐこの国の政府、朴槿恵政権の耳をふさいでいる様が、最も暴力的で反人権的である。

本当に朴槿恵大統領の耳には聞こえないのだろうか。政府の心には届かないのだろうか。蹂躪された青春を返してくれとの金学順ハルモニの絶叫が、汚いお金はいらないから真の謝罪をせよとの黄錦周

ハルモニの要求が、全うな賠償と責任者処罰をふたつの目で見たいと泣き叫んだ姜徳景ハルモニの声が、口だけで許しを求めるのではなく何代にわたっても記憶し謝罪せよとの金順徳ハルモニの叫びが、彼らには剥製となった過去の音声だということか。間違った合意だものすごい剣幕で怒鳴りつけ正しい謝罪を求める生存者の声さえ聞くことのできない政府のもとにいる国民は、限りなく悲惨である。

加害者は手を引いて「合意金」をいつ渡すかのあんばいを見ている状況で、冷えきった素足を故国の地につけることさえできない少女像の運命は、嘘まみれの政府によって風前の灯である。犯罪事実を認めないお詫びと日本政府自らも賠償ではないと明らかにした 10 億円を、被害者にあたかも勲章のように差出し懐柔と説得に血眼になっている政府に、正しい問題解決の意志は最初からなかったようだ。足早に終結してしまいたい頭痛の種だと思っているからこそ、このような拙速合意がなされ、合意が間違っているとの被害者と市民の声をこれほど徹底して無視することができるのだろう。

女性家族部の業績だと八方に宣伝していた日本軍「慰安婦」ユネスコ申請をここにきて足蹴にし、教科書の「慰安婦」記述さえ自らの手で削除し、強制連行と性奴隷という犯罪の本質さえ否定する日本政府を相手にわざと目を瞑ってやる無能と非常識行為は、12.28 合意がなぜ間違っているのかを政府自らが如実に証明しているといえる。被害者を分裂させ民間団体の努力を水の泡にする合意後の悪質行為は、理性も人間性も喪失したまま突進するゾンビを見るかのように奇怪だ。

しかし、私たちはあきらめない。戦場で蹂躪された日本軍「慰安婦」被害者の名誉と人権を、拙速合意で再び蹂躪されるがままにはできない。そのため、再び被害者ひとりひとりの叫びを心に刻む。被害者の叫びを彼らに聞かせ、問題解決が何であるかを悟らせようと思う。

戦争犯罪認定！

真相究明！

公式謝罪！

法的賠償！

責任者処罰！

歴史教科書に記述！

追悼碑と史料館の建設！

日本政府を相手にこの要求を実現させることこそ、朴槿恵政府がすべきことである。

誰のための和解と癒しなのか。誰による和解と癒しなのか。被害者の権利をいくばくかのお金の問題に転落させ、その手で生きた歴史を封印する朴槿恵政府の狂気が生んだ 12.28 合意を、「和解・癒し財団」を、正義と人権の名で反対する。韓国政府は日本軍「慰安婦」合意を全面無効化し、被害者の叫びに耳を傾け、今からでも軌道変更しなければならない。これ以上遅くなる前に、日本軍「慰安婦」問題の正しい解決のため立ち上がることを強く求める。

2016 年 7 月 28 日

韓国挺身隊問題対策協議会

水俣病患者東京本社交渉団とチッソ株式会社との補償協定書 (1973. 7. 9) 一部抜粋

協定書

水俣病患者東京本社交渉団と、チッソ株式会社とは、水俣病患者、家族に対する補償などの解決にあたり、次のとおり協定する。

<前文>

一、チッソ株式会社は、水俣工場で有害物質を含む排水を流し続け、廃棄物の処理を怠り、広く対岸の天草を含む水俣周辺海域を汚染してきた。その結果、悲惨な「水俣病」を発生させ、人間破壊をもたらした事実を率直に認める。

二、昭和三十一年の水俣病公式発見後も、被害の拡大防止、原因究明、被害者救済等々、十分な対策を行なわなかったため、いよいよ被害を拡大させることとなったこと、及び原因物質が確認されるに至っても、更に問題が社会化するに及んでも、解決に遺憾な態度をとってきた経過について、チッソ株式会社は心から反省する。

三、貧窮にあえぐ患者及びその家族の水俣病に罹患したこと自体による苦しみ、チッソ株式会社の態度による苦痛、加えて種々の屈辱、地域社会からの差別等により受けた苦しみに対して、チッソ株式会社は心から陳謝する。

チッソ株式会社は、責任回避の態度や、解決を長びかせたことにより社会に多大の迷惑をかけたことに対し、第三の水俣病問題で全国民が不安の状態にある今日、あらためて社会に対し心から謝罪する。

四、熊本地方裁判所は、水俣病はチッソ株式会社の工場排水に起因したものであり、かつ、チッソ株式会社に過失責任ありとして原告の請求を全面的に認める判決を行なった。チッソ株式会社は、この判決に全面的に服し、その内容のすべてを誠実に履行する。

五、見舞金契約の締結等により水俣病が終ったとされてからは、チッソ株式会社は水俣市とその周辺はもとより、不知火海全域に患者がいることを認識せず、患者の発見のための努力を怠り、現在に至るも水俣病の被害の深さ、広さは究めつくされていないという事態をもたらした。チッソ株式会社は、これら潜在患者に対する責任を痛感し、これら患者の発見に努め、患者の救済に全力をあげることを約束する。

六、チッソ株式会社は、過ちを再びくりかえさないため、今後、公害を絶対に発生させないことを確約するとともに、関係資料等の提示を行ない、住民の不安を常に解消する。現在汚染されている水俣周辺海域の浄化対策について、関係官庁、地方自治体とともに、具体的方策の早期実現に努める。また、チッソ株式会社は、関係地方公共団体と公害防止協定を早急に締結する。

七、チッソ株式会社は、水俣病患者の治療及び訓練、社会復帰、職業あつせんその他の患者、家族の福祉の増進について実情に即した具体的方策を誠意をもって早急に講ずる。

八、チッソ株式会社は、水俣病患者東京本社交渉団と交渉を続けてきたが、事態を紛糾せしめ、今日まで解決が遅延したことについて患者に遺憾の意を表する。

<本文>

一、チッソ株式会社は、以上前文の事柄を踏まえ、以下の事項を確約する。

(1)本協定の履行を通じ、全患者の過去、現在及び将来にわたる被害を償い続け、将来の健康と生活を保障することにつき最善の努力を払う。

(2)今後いっさい水域及び環境を汚染しない。また、過去の汚染については責任をもって浄化す

第 14 回日本軍「慰安婦」問題解決のためのアジア連帯会議 決議および行動計画

私たちは、〈真実・正義・賠償・再発防止のために〉というテーマで、2016年5月18日から20日まで、ソウルにおいて第14回日本軍「慰安婦」問題解決のためのアジア連帯会議を開催した。フィリピンのエステリータ・バスバーニョ・ディ、東ティモールのイネス・マガリヤイス・ゴンサルベス、大韓民国の吉元玉、金福童、安点順、李容洙さんら生存者と、東ティモール、フィリピン、インドネシア、台湾、香港、中国、日本、アメリカ、オランダ、韓国などの活動家が参加した。

私たちは今回の会議で、2015年12月28日に韓国と日本の外相会談後、電撃的に発表された日本軍「慰安婦」問題に関する両国政府間合意（以下、12.28日韓合意）が、過去25年間問題解決のため努力してきた被害者と市民社会の熱望を踏みにじる重大な挑戦であるとの認識を共有した。何より12.28日韓合意は、両国政府が主張するような「最終的かつ不可逆的な解決」ではないのはもちろんのこと、根本的に日本軍「慰安婦」問題の解決策になりえないという事実をはっきりと確認した。

ここに、私たちは第14回日本軍「慰安婦」問題解決のためのアジア連帯会議の名で次のとおり宣言する。

1. 12.28日韓合意は日本軍「慰安婦」問題に対する解決策にはなりえない。

－被害者が完全に排除され、被害者中心の人権原則が反映されていない。

－第12回アジア連帯会議で採択し、第13回アジア連帯会議で再確認した「提言」、すなわち「犯罪事実と責任認定」、これに基づく「翻すことのできない謝罪、賠償、真相究明、歴史教育」等が盛り込まれていない。

－韓国以外の被害国被害者が全く考慮されていない。

2. 私たちは、このような誤った合意で日本軍「慰安婦」問題を終結させようとする日韓政府に強く抗議し、次のとおり要求する。

－日本政府と韓国政府は、12.28日韓合意が日本軍「慰安婦」問題の解決策にならないことを認めよ。

－日本政府は、全ての被害者と市民社会の要求に耳を傾けてアジア連帯会議の「提言」を受け入れ履行せよ。

－日本政府は、犯罪事実を歪曲し否認し続けることによる、被害者への人権侵害をやめよ。

－日本政府は、平和の碑の移転撤去など不当な要求を即刻取り下げ、誠実な姿勢で歴史と向き合え。

－韓国政府は、12.28日韓合意を拒否する被害者と市民社会の要求を尊重し、国際人権規範に則った正しい問題解決のため努力せよ。

3. 今後、私たちは連帯して、次のような行動を積極的に展開する。

－12.28日韓合意の深刻な問題点を各国および国際社会に広く知らしめ、被害者の要求を盛り込んだアジア連帯会議の「提言」が実現されるよう引き続き活動する。

－日本政府がすべての日本軍「慰安婦」被害者の人権を回復し、問題を解決するよう求め活動する。

－被害者とともに日本軍「慰安婦」問題に関する真実、正義、賠償の実現と再発防止を市民社会が先頭に立って成しとげるよう活動する。

2016年5月20日

第14回日本軍「慰安婦」問題解決のためのアジア連帯会議参加者一同

日本政府への提言

日本軍「慰安婦」問題解決のために

今、全世界は女性に対する重大な人権侵害であった日本軍「慰安婦」問題の解決を、日本政府に切実に求めている。日本軍「慰安婦」問題を解決することは、近隣諸国との関係を正常化する第一歩であり、世界平和に資するための基礎を築くことである。そして「解決」とは、被害当事者が受け入れられる解決策が示された時にはじめて、その第一歩を踏み出すことができる。

では、被害者が受け入れられる解決策とは何か。被害者が望む解決で重要な要素となる謝罪は、誰がどのような加害行為をおこなったのかを加害国が正しく認識し、その責任を認め、それを曖昧さのない明確な表現で国内的にも、国際的にも表明し、その謝罪が真摯なものであると信じられる後続措置が伴って初めて、真の謝罪として被害者たちに受け入れられることができる。

戦後も心身に傷を抱えて被害回復ができないまま苦しみの人生を生きてきた被害者たちが高齢化した今、日本がこの問題を解決できる時間はもうあまり残されていない。第12回日本軍「慰安婦」問題アジア連帯会議に参加した被害者と支援団体と参加者は、日本政府が「河野談話」を継承・発展させ以下のような事実を認めた上で、必要な措置を講じることを求める。

日本軍「慰安婦」問題解決のために日本政府は

1. 次のような事実とその責任を認めること

- ① 日本政府および軍が軍の施設として「慰安所」を立案・設置し管理・統制したこと
- ② 女性たちが本人たちの意に反して、「慰安婦・性奴隷」にされ、「慰安所」等において強制的な状況の下におかれたこと
- ③ 日本軍の性暴力に遭った植民地、占領地、日本の女性たちの被害にはそれぞれに異なる態様があり、かつ被害が甚大であったこと、そして現在もその被害が続いているということ
- ④ 当時の様々な国内法・国際法に違反する重大な人権侵害であったこと

2. 次のような被害回復措置をとること

- ① 翻すことのできない明確で公式な方法で謝罪すること
- ② 謝罪の証として被害者に賠償すること
- ③ 真相究明：日本政府保有資料の全面公開
国内外でのさらなる資料調査
国内外の被害者および関係者へのヒヤリング
- ④ 再発防止措置：義務教育課程の教科書への記述を含む学校教育・社会教育の実施
追悼事業の実施
誤った歴史認識に基づく公人の発言の禁止、および同様の発言への明確で公式な反駁等

2014年6月2日

第12回日本軍「慰安婦」問題アジア連帯会議